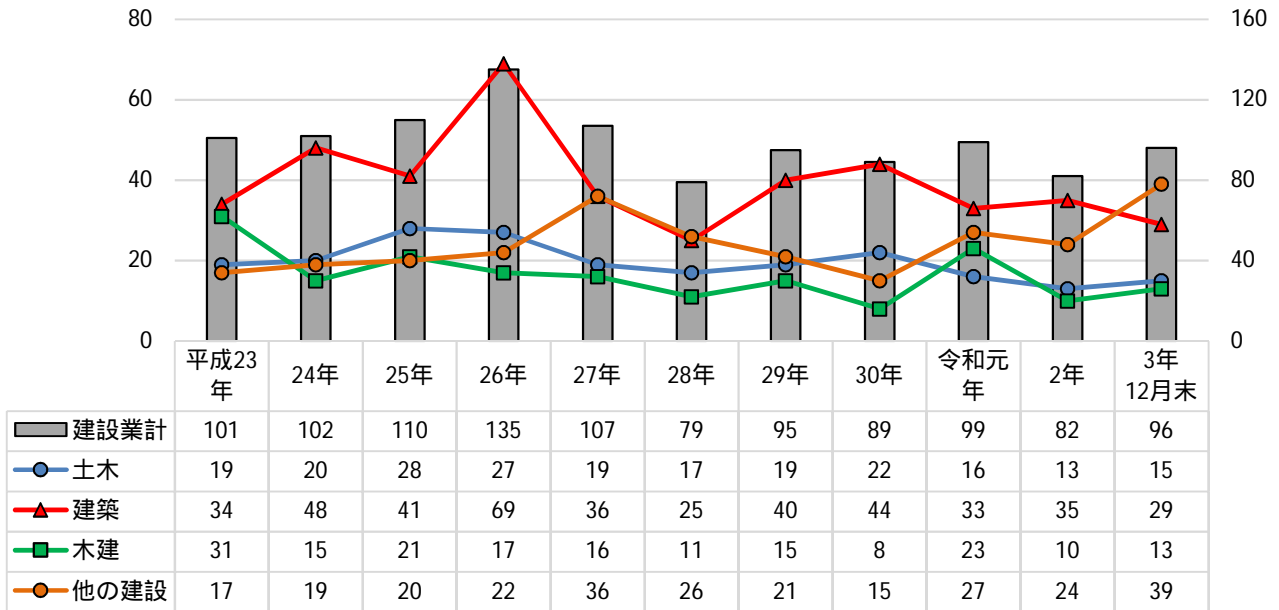


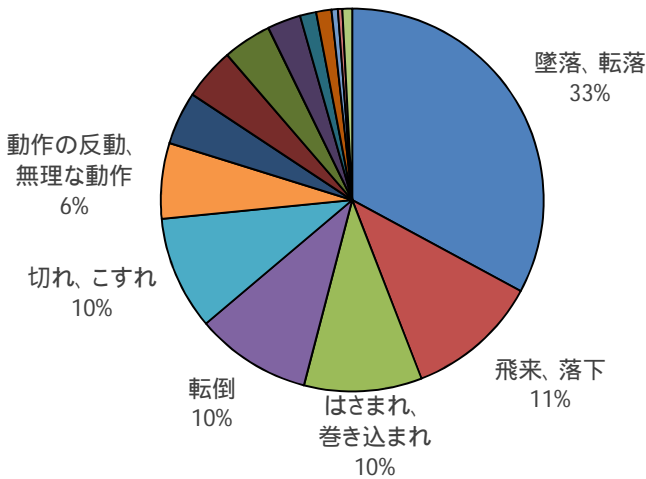
岡山労働基準監督署管内 建設業労働災害発生状況

過去10年の業種ごとの推移



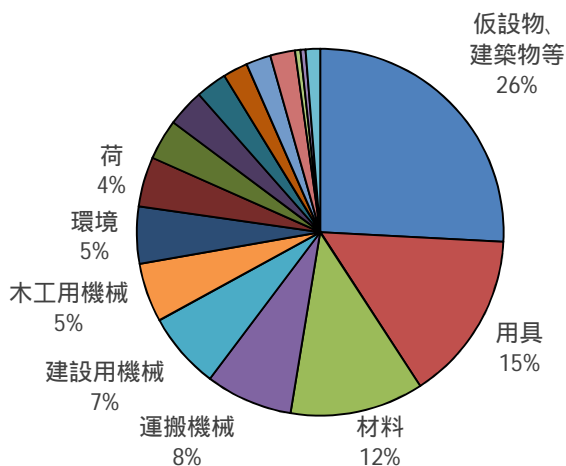
新型コロナウイルスによるものを除く

事故の型別割合 (23年以降計1095人)



事故の型	被災者数	(内死亡)
墜落、転落	360	(9)
飛来、落下	123	(2)
はさまれ、巻き込まれ	109	(3)
転倒	107	
切れ、こすれ	105	
動作の反動、無理な動作	70	
激突	49	
激突され	48	(1)
交通事故	45	(4)
崩壊、倒壊	31	(2)
踏み抜き	15	
高低温物との接触	14	
有害物等との接触	6	
感電	4	
その他	9	

起因物別割合



起因物	被災者数	(内死亡)
仮設物、建築物等	283	(7)
用具	164	(3)
材料	129	
運搬機械	84	(3)
建設用機械	74	(2)
木材加工用機械	57	
環境	55	(1)
荷	48	
棄物	39	(2)
人力機械工具	36	
一般動力機械	30	(1)
金属加工用機械	24	
クレーン等	24	(1)
他の装置、設備等	24	(1)
電気設備	5	
有害物	5	
その他	14	

適切な足場の設置、はしご・脚立の適正使用、保護具の使用を徹底し、墜落・転落災害を防ぎましょう！

岡山監督署管内の建設業における過去10年の労働災害では、墜落・転落災害が1/3を占め、うち9人の方が亡くなっています。

また一人親方や中小事業主等、労働者以外の方の災害も多く発生しており、中には死亡に至ったものもあります。令和3年だけでも、岡山監督署管内で発生、把握している一人親方等の死亡災害は2件あり、いずれも墜落・転落災害です。

通常監督署が公表している「労働災害」は「労働者が業務に起因して負傷等したもの」であり、一人親方等の災害は含まれません。

墜落、転落災害の状況

屋根や、解体中の床の端から転落...4人(うち2人は一人親方等)
 { 足場の手すり等の下を抜けて
 足場の開口部から
 乗り移ろうとした移動式足場が動いて } ...転落 4人
 はしご上で作業、または昇降中に転落...2人
 重機ごと川に転落...1人

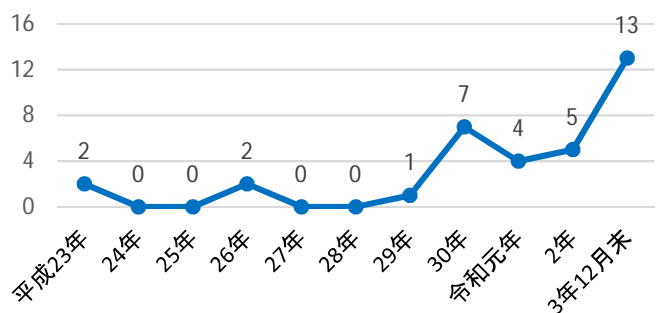


その他

建設現場にも技能実習生など外国人労働者が増加し、それに伴い労働災害も増加しています。元々の文化の違いを念頭に置きつつ、コミュニケーションをしっかりと取り、作業に関するルールを十分に理解させるよう努めて下さい。



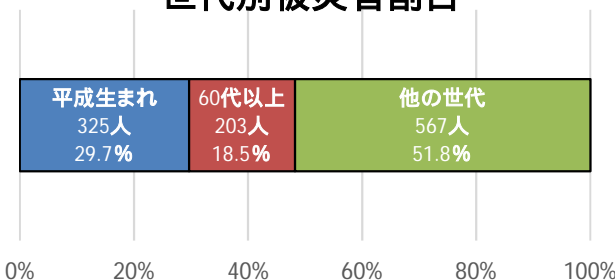
外国籍の被災者数



建設業では世代交代が進んでおり、「平成生まれ(32歳以下)」の被災者の割合は29.7%、また死亡災害でも28.6%(21人中6人)と、約3割を占めています。経験が浅い分、雇入時教育をはじめとした各種教育を十分に行って下さい。

一方で、死亡災害については高年齢化も進んでおり、60代以上の死亡者数は7人と1/3を占めています。一般的に高年齢労働者は知識・経験が豊富で、頼れる存在ではありますが、加齢による体力等の低下は否めず、災害に遭う頻度自体が高く、また重篤化する傾向にあります。高年齢労働者が快適に安心して働ける職場環境づくりに努めてください。高年齢労働者に関して配慮すべき事項については、「エイジフレンドリーガイドライン」が示されています。

世代別被災者割合



世代別死亡者割合

